

## ぞうのアリスの紙芝居（小学低学年児童のために）

執筆担当：前田啓実（茨木市立小学校）

### Q1. 何を目的とした紙芝居ですか？

「ぞうのアリス」は日常子ども達が起こすトラブルを動物にたとえ、人間関係スキルの向上を図ることを目的にしています。

### Q2. 「ぞうのアリス」はどんな存在ですか？

「ぞうのアリス」の側にいるだけで、ほっとでき、やさしい気持ちになれる癒し系として、困った時には相談もできるソーシャルサポーターとして、またストレスマネジメントを導いてくれる役割の存在として登場しています。

さらに、「ぞうのアリス」のアリスは『たのしく **あ**そんで **い**ラックスすれば **え**ストレスはへるよ』のメッセージになっています。

### Q3. どの動物に焦点をあてればいいですか？

◎クラス子ども達によって、授業の内容を膨らましていくことができる教材にしています。

#### ●きつね側に焦点をあてた場合

ねらい：「暴力をふるわない方法」・「ストレスの流れについて」の学習

自分達の生活を振り返りながら、①友だちと遊ぶ中で叩いたり、蹴ったりしていないか ②やられたらやり返すといった「仕返し」はしていないか ③考え方でケンカにならないですむことや ④暴力ではなく言葉で伝えていくことの大切さに気づかせることができます。

また、3年生以上の学年においては、ストレスの流れを学習することができます。しっぽを踏まれたことがストレスであり、腹がたつことはストレス反応であることを知り、何とかしようとする行動をコーピングだと理解させます。言葉にして伝えることは良いコーピングであるが、たたく、蹴るは間違ったコーピングであることを学び、よりよい対処法を考えてみます。

併せて子どもにとってのストレスの具体例を提示し、よりよい対処法を考える授業につなげていきます。

#### ●うさぎ側に焦点をあてた場合

ねらい：「相手の気持ちを考える」・「アサーショントレーニング」の学習

自分達の生活を振り返りながら、①相手に痛い思いや嫌な思いをさせてしまった時、「ごめんなさい」と伝えられているか ②「ごめんなさい」と謝っても許してもらえなかった時の気持ち③叩かれたり、蹴られたりした時の気持ち④アリスが来た時の気持ちはどうだったのかなど、気持ちに焦点をあて「相手の気持ちを理解する・共感する」といった学習ができます。

さらに、「ごめんなさい」の言い方が、謝罪ではなく偉そうな言い方や無視の場合、相手はどんな気持ちになるのか考えさせることができます。そして自分の気持ちを上手に伝えるやり方として、アサーショントレーニングに発展させることができます。

#### ●一緒に遊んでいた動物達側に焦点をあてた場合

ねらい：「いじめについて」の学習

①うさぎがきつねに暴力を振るわれているのに、だれも助けに来てくれなかった時のう

さぎの気持ちを考えさせることや ②暴力を振るわれていたうさぎをみていた時の動物たちの気持ちはどうだったのか ③見て見ぬふりをする傍観者にならないことを学習し、いじめ問題にもつなげていくことができます。

#### Q4. 腹がたったときの対処の仕方は言葉で伝えるだけでいいですか？

●紙芝居の中では、暴力ではなく別のやり方として言葉で伝える方法を教えていますが、5話のきつねが考える場面で、ワークシートを使って相手を傷つける言い方をしていないか、きつねとうさぎが和解してある言葉になっているか確認します。

●自分たちの生活を振り返り、イライラや腹がたったとき、どうしているか考えさせてみます。

(深呼吸・その場から離れる・先生に話す・家の人に話す・遊ぶ・気分を変えるなど)

◆腹式呼吸を練習します。(気分を落ち着かせる方法を体験します)

- ① A4サイズの青色の上質紙を使って、または20cm～30cmに切った紙テープを額に当て視覚的に長く息が吹きかけられているのがわかります。
- ② 鼻から息を吸って、口から吐くことを練習します。
- ③ おへその下部分に軽く手を置き、吐く時は下腹部をへこませ、吸った時には膨らむように呼吸します。

#### Q5. 授業後、どのような効果がありましたか？

・一回の授業で、暴力がなくなればいいのですが、すぐには上手くいかないことがあります。

しかし、喧嘩による怪我は統計的に減ることができました。

(教師側の感想)

・クラスでトラブルが発生した際、子どもの言動について「ぞうのアリス」の登場した動物と結び付けて、どうしたらいいのか考えさせることができた。

・ストレスマネジメント教育の授業をすることで、一人ひとりが気持ちを表現しやすい雰囲気づくりにつながった。

・大きな声で指導することがなくなった。

・問題が起きた時、原因と対処の仕方はどうだったのか、振り返ることで整理させ、考えることができた。

(子どもの反応)

・ぞうのアリスは本当にやさしいと思った。

・自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしないと、どちらにも嫌な気持ちがのこってしまう。

・人の気持ちがわかってきた。

・たたくやり方は、よくないやり方だとわかった。

・ちゃんと言わないと、わからない。ちゃんということが一番。

Q 6. 紙芝居の流れの例 「腹がたっても暴力をふるわない方法」



1話 今日は、みんなに紙芝居を持ってきました。「なんて書いてあるかな」「みんなで読んでみましょう」「絵の中にはどんな動物がいるかな?」「これから、何をしようとしているかな?」

絵からイメージさせて、どんな話なのか、興味を持たせる。



2話 森で動物達がかくれんぼして遊んでいました。うさぎさんが、きり株に躓いて転びそうになったとき、きつねさんのしっぽを踏んづけてしまいました。

しっぽを踏んづけたときのうさぎとしっぽを踏まれたきつねの気持ちを考えさせる。



3話 うさぎさんは、すぐに「ごめんなさい」と謝りましたが、きつねさんは腹がたったので、うさぎさんをたたいたり、蹴ったりしました。

うさぎが謝ったにもかかわらず、きつねに叩かれたり、蹴られたときのうさぎの気持ちを考える。



4話 そこへぞうさんがやってきて、「ねえ、きつねさん。たたいたり、蹴ったりするやり方しかないかな?」と言いました。

ぞうのアリスがきてくれたときの、うさぎの気持ちを考える。



5話 きつねさんは、しばらく考えてみました。みんなも一緒に考えて、たたいたり、蹴ったりする以外にどうすれば良かったか、きつねさんに教えてあげよう。

暴力をつかわないですむ方法を考える。自由にワークシートに記入し、発表させる。



6話 考えたきつねさんは「うさぎさん、たたいてごめんなさい。痛いのをちょっと我慢して『痛かったよ。これからは、気を付けてね』って言葉でいえばよかったです。横でぞうのアリスが「そうだね。そう考えると喧嘩にならないね。」とにこにこしながら言いました。それから、うさぎさんときつねさんは仲良く遊びました。

●まとめとして、ぞうのアリスは何が良かったのか。考え方や言い方、ちょっと我慢

することで、喧嘩にならないことや、暴力じゃなくても言葉で伝える大切さを教えてくれたことを押さえておきましょう。